

ODIP 4.2 修正パッチ (P1040208006123) リリースノート

2024/11/29

(株) インテリジェント・モデル

ODIP は、(株) インテリジェント・モデル社の登録商標です。

本書に掲載された情報に基づいた行為の結果として発生した損害、利益の損失、経費などについて、(株) インテリジェント・モデルならびに本書の製作関係者は一切の責任を負いません。

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で転載・複製することは法律で定められた場合を除き、禁止されています。

目 次

A. 変更内容 .....	4
1. 可変長文字列型の最大長の拡張.....	4
B. バージョンアップによる影響 .....	4
C. パッチの適用方法.....	4
1. ライブラリファイルの更新.....	5
2. パッチ適用後の確認.....	5

## A. 変更内容

### 1. 可変長文字列型の最大長の拡張

データタイプ定義において、可変長文字列型 (v) のカラムの長さに指定できる最大長を 32,767 バイトから 65,535 バイトに拡張しました。データセットでは拡張後の最大長をもつカラムを定義することができます。ただし、データソースの制約によって、一定以上長い文字列を扱えない場合もありますので、次の点にご留意ください。

- ① データベースのテーブルでは、列値の最大長は RDBMS の制限に従います。テーブルの作成、定義の実行時に長さの制限によるエラーが発生する場合があります。
- ② CSV ファイルなどファイルを読み込む処理では、内部 DB または一時テーブルにデータをロードして処理を行います。このとき、ソート順の構成列、結合キー列に一定以上長い文字列の値があると、長さの制限またはメモリオーバーフローによるエラーが発生する場合があります。
- ③ データベースツールの“データ表示”オプションの行表示ダイアログでは、文字列が表示幅を超えるときには、拡張ダイアログを表示する機能を追加しています。文字列の長さが最大長に近いと、拡張ダイアログの表示に時間がかかる場合があります。

## B. バージョンアップによる影響

既存の定義への影響はありません。

## C. パッチの適用方法

本パッチは、次の ODIP 製品に適用してください。

- ODIP アドミニストレータ v4.2
- ODIP オペレーションマネージャ v4.2
- ODIP リポジトリマネージャ v4.2
- ODIP プロセスマネージャ v4.2
- ODIP リポジトリサーバ v4.2
- ODIP トランスフォーマ v4.2

## 1. ライブラリファイルの更新

実行中の ODIP 製品を終了し、ODIP\_P1040208006123 フォルダに格納されているライブラリファイルを、表 1 のファイルのコピー先に上書きコピーしてください。

表 1 ODIP\_P1040208006123 のフォルダ構成及びファイルのコピー先

ODIP_P1040208006123	ファイルのコピー先
lib	
ADM	ODIP アドミニストレータの lib フォルダ
OPE	ODIP オペレーションマネージャの lib フォルダ
RPM	ODIP リポジトリマネージャの lib フォルダ
RPS	ODIP リポジトリサーバの lib フォルダ
TFM	ODIP トランスフォーマの lib フォルダ

## 2. パッチ適用後の確認

パッチ適用後は、各製品を起動し、表 2 の確認方法に従って確認を行ってください。

表 2 パッチ適用後の確認方法

製品名	確認方法
ODIP アドミニストレータ	ヘルプメニューから“ODIP について”を選択し、表示されたすべてのビルド ID が 1040208006123 であることを確認してください。
ODIP オペレーションマネージャ	
ODIP リポジトリマネージャ	
ODIP プロセスマネージャ	
ODIP リポジトリサーバ	ODIP リポジトリマネージャのツールメニューから“ORMSサーバ情報”を選択し、表示されたすべてのビルド ID が 1040208006123 であることを確認してください。
ODIP トランスフォーマ	ODIP トランスフォーマを起動し、showserver コマンドを、オプションに“-info version”を指定して実行してください。表示されたすべてのビルド ID が 1040208006123 であることを確認してください。

以 上